

アジア共同学位開発プロジェクト

上埜 高志

アジア共同学位開発プロジェクト・リーダー

本プロジェクトは、平成 23 年度～平成 27 年度の 5 年間、概算要求特別経費「東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究」（事業名「アジア共同学位開発プロジェクト」）として実施している。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、平成 23 年度の進行がやや遅れ気味であったため、平成 24 年度においては遅れを取り戻すべく、関係者一丸となり、本プロジェクトに取り組んできた。本稿では (1) 実施体制、(2) 海外出張・国内出張、(3) 外国人研究員（客員教員）、(4) 国際シンポジウム、(5) 外部評価、(6) サマーコース、(7) 共同学位カリキュラムについて振り返る。

(1) 実施体制

専任助教 2 名、教育研究支援者 1 名、事務職員 1 名で、プロジェクト事務局を構成した。教職員と事務局からなる推進会議および全体会議の 2 つが設けられた。全体会議は、開催日を確保することがむずかしく、また推進会議と構成員の多くが重複しており、推進会議（月 1 回開催）で代えることとした。機動的に対応するため、推進会議の下に企画委員会を設け、週 1 回開催し、さまざまな案件を処理してきた。

(2) 海外調査・国内調査

海外調査を 10 回、国内調査を 8 回実施した。これらの調査を通じて、各国の大学との交流・連携を図ることができ、また、各大学の国際戦略や共同学位の実施状況などさまざまな情報を収集することができた。

(3) 外国人研究員（客員教員）

中国 3 名、韓国 2 名、台湾 2 名の計 8 名の外国人研究員（客員教員）を招聘した。本プロジェクトへの助言を含めた意見交換ができた。その他、4 名の客員教員には、サマーコース（後述）へ協力いただき、充実した授業科目とすることができた。

(4) 国際シンポジウム・国際セミナー

「国際シンポジウム」は、本年度、2 回開催した。

9 月、『国際的共同学位の構想－国際化時代に対応した人材育成－』（日英同時通訳）

をテーマとして、基調講演に Teichler 教授（カッセル大学、ドイツ）を招き、さらに北京師範大学、南京師範大学、ソウル国立大学、国立政治大学、国立台湾師範大学からシンポジストを招き、国際シンポジウムを開催した。共同学位に関する国際的な実情を知ることができた。

2月、滞在中の客員教員4名をシンポジストとして『東アジアの高等教育の行方—共同学位プログラム創設を目指して—』（日中韓同時通訳）をテーマに国際シンポジウムを開催した。東アジアにおける各大学の共同学位に関する状況をくわしく知ることができ、本プロジェクトが目指す共同学位にとって礎となった。

客員教員あるいは招聘した研究者による「国際セミナー」については、本年度、4回開催した。

(5) 外部評価

平成24年8月、二宮皓放送大学副学長・教授、小尾晋之介慶応義塾大学教授、Vickers Edward 九州大学准教授の3名の委員による外部評価委員会を開催した。貴重な助言等をいただくことができ、プロジェクトの推進に役立てることができた。なお、Vickers 委員は、所用のため欠席で書面による意見等の提出となった。

(6) サマーコース

平成24年8月、大学院の授業科目『アジアの子ども』『アジアの学校』（各2単位）を“サマーコース”として開講した。

本研究科の教員のほか、中国、韓国、台湾から教員を招き講師として、英語による授業科目とした。中国、韓国、台湾から11名の大学院学生を招いて、受講しての意見・感想を求め、共同学位プログラムへの参考となった。本研究科からの履修登録学生が少なかったことが今後の課題として残った。

(7) 共同学位カリキュラム

3月、本研究科にて高麗大学と共同学位カリキュラムに関する国際ワークショップを開催し、意見交換をした。共同教育科目、単位互換等について検討し、カリキュラムの創設に向けての課題が明確となった。

東アジアおよび ASEAN 諸国の有力大学と連携し、東アジアにおけるリーダー養成のモデルとなる国際的教育指導者共同学位プログラムの開発を行うことを目的として始まった本プロジェクトは、3年目の平成25年度には具体的なカリキュラムの創設に向けて、取り組むことになる。

平成 24 年度 主な活動状況および関連事項

月	内 容
4 月	ホームページ開設 (http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/)
5 月	「サマーコース 2012」受講生の募集開始。
6 月	
7 月	国際セミナー「高等教育の国際化④」 国際共同学位プログラムの内部質保証に向けて一日・中の事例から－／叶林准教授（中国・杭州師範大学） ※本セミナー「高等教育の国際化」は、2011 年度より継続して開催している。
8 月	外部評価委員会開催 姜大仲准教授（韓国・ソウル国立大学）が客員教員として着任。 李梅准教授（中国・華東師範大学）が客員教員として着任。 張世華助理教授（台湾・国立台湾師範大学）が客員教員として着任。 「サマーコース 2012」（『アジアの子ども』『アジアの学校』）
9 月	台湾・国立政治大学教育学院と学術交流協定を締結。 国際セミナー「高等教育の国際化⑤」 Profession on the Move: Chinese Knowledge Diaspora in the United States／李梅准教授 Codependency among College Students in Taiwan and the USA／張世華助理教授 国際シンポジウム 国際的共同学位の構想－国際化時代に対応した人材育成－ 基調講演：高等教育における流動性：ヨーロッパの経験から／Ulrich Teichehler 教授（ドイツ・カッセル大学） 講演 1：東北大学大学院教育学研究科における新たなビジョン：KASP／本郷一夫 講演 2：国際的卓越性を求めて：ソウル大学の現状と未来／朴成春助教授（韓国・ソウル大学） 講演 3：北京師範大学：APIC／高益民准教授（中国・北京師範大学） 講演 4：南京師範大学のグローバル人材育成のビジョン／傅宏教授（中国・南京師範大学） 講演 5：国立台湾師範大学の経験とチャレンジ／黄純敏准教授（台湾・国立台湾師範大学） 講演 6：書院教育とコア・コンピテンスのアセスメント／陳幼慧准教授（台湾・国立政治大学）

10月	<p>国際セミナー「高等教育の国際化⑥」</p> <p>English As A World Language: Some Perspectives on Teaching and Learning in A Globalized Age/John O' Regan 教授 (イギリス・ロンドン大学)</p> <p>申正撤准教授 (韓国・ソウル国立大学) が客員教員として着任。</p> <p>シンポジウム報告集 (Ⅲ)「東アジアにおける高等教育の国際化」を刊行。</p>
11月	
12月	<p>国際セミナー「高等教育の国際化⑦」</p> <p>国際的共同教育の現状と課題－同志社大学の事例から/山田礼子教授 (同志社大学)</p>
1月	<p>梁忠銘教授 (台湾・国立台東大学) が客員教員として着任。</p> <p>胡建華教授 (中国・南京師範大学) が客員教員として着任。</p> <p>鄭同僚准教授 (台湾・国立政治大学) が客員教員として着任。</p>
2月	<p>国際シンポジウム</p> <p>東アジアの高等教育の行方－共同学位プログラム創設を目指して－</p> <p>基調講演: Higher Education in East Asia tomorrow: In search of the Joint Degree Program/清水禎文</p> <p>講演1: The Future of University in Post-Massification－Redesigning Teaching and Research Systems－/申正撤准教授 (韓国・ソウル国立大学)</p> <p>講演2: 国際化における大学の社会と地方に対する役割－台東大学の例を中心に－/梁忠銘教授 (台湾・国立台東大学)</p> <p>講演3: 中国における高等教育改革の新たな動向/胡建華教授 (中国・南京師範大学)</p> <p>講演4: Building the Polis－ Residential college experience from National Chengchi University in Taiwan－/鄭同僚准教授 (台湾・国立政治大学)</p>
3月	<p>第1回合同カリキュラム委員会開催。</p> <p>年次報告書「アジア共同学位開発プロジェクト 実施報告書 2012年度」刊行 (予定)。</p> <p>シンポジウム報告集 (Ⅳ)「国際的共同学位の構想－国際化時代に対応した人材育成－」刊行 (予定)。</p> <p>シンポジウム報告集 (Ⅴ)「東アジアの高等教育の行方－共同学位プログラム創設を目指して－」刊行 (予定)。</p> <p>ニューズレター (AJP PRESS vol.2、vol.3) 発行 (予定)。</p>